



編集・発行

大阪府立

呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL: 072-957-2121

FAX: 072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: kokyucen@ra.opho.jp



「糖尿病かも知れませんよ」と言われた方へ

循環器内科主任部長

あらき 荒木

よしひこ 良彦

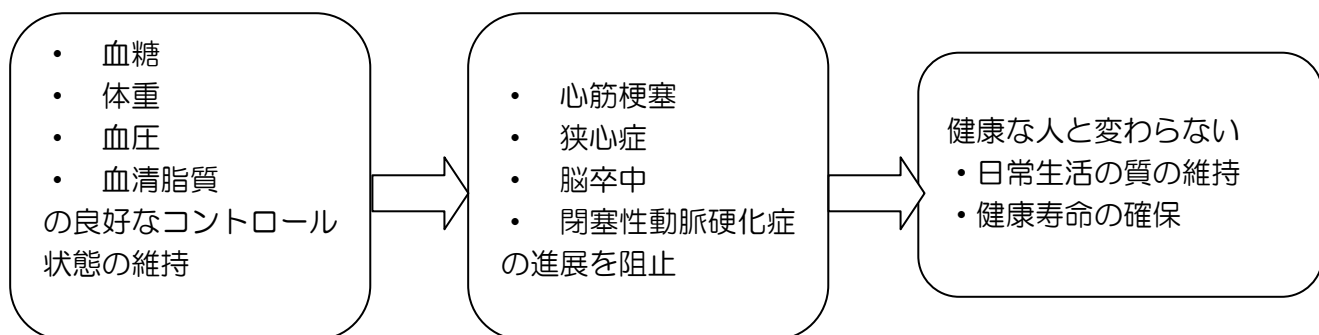
日本の糖尿病患者は予備軍も含め 2200 万人と推定されていますが、現代人の飽食・運動不足による影響が大きく その増加率は急激であり現在の国民病とされています。



当センターは呼吸器・アレルギー疾患の専門病院ですが、糖尿病を併発している方も相当おられます。糖尿病は膵臓で作られるインスリンの減少（インスリン分泌不足）やインスリンの働きの低下（インスリン抵抗性）により血液中のブドウ糖が増加して血糖値が高くなり発症します。

糖尿病を放置あるいは治療が不十分な場合、全身の血管障害をおこして動脈硬化が進みます。心筋梗塞や脳卒中などの心・血管病を引き起こす事も多く、生命にかかわる場合も少なくありません。特に高血圧や脂質異常症（高コレステロール血症など）を合併している方は、より一層の注意が必要です。また 失明に至る網膜症（眼）や人工透析の必要な腎不全、手足のしびれや痛みが増強する神経症を生じる場合もあります。

治療の目標は、図1のような方向性を作り出す事です。薬物治療（内服薬やインスリン注射）が必要となる場合も多いわけですが、何よりも自分自身で糖尿病が生じた生活習慣をかえていく努力（食事・運動・禁煙など）が大切です。



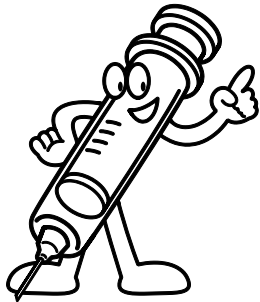
※食事・運動・内服治療については、次号に掲載予定です。

12月の教室案内

*カンガルー教室	●12月7日・14日・21日	午後1時半～	第1会議室
*喘息教室	●12月15日	午後2時半～	第2会議室
*禁煙教室	●12月1日	午後3時45分～	医療情報コーナー

ロタウイルスのワクチンが発売されました 感染症センター長 ^{まつもと}松本 ^{ともしげ}智成

ロタウイルス感染を予防するワクチンが、日本各地の医療機関で接種できるようになりました。当センターでも接種が出来るように採用手続きを行っていく予定です。



感染性胃腸炎の原因ではノロウイルスが有名ですが、一般的に、ロタウイルスの方が症状は重いです。森島恒雄・岡山大学教授は「年間約1000例の急性脳炎のうち、ロタウイルスによるものは約40例。うち4%が死亡、38%に寝たきりなど重い後遺症が出ており、インフルエンザ脳症に比べても予後が良くない。ロタはけいれんを起こしやすく止めにくいこともあり、発症を防いだ方がいい」とワクチン接種を勧め、WHO（世界保健機関）も、ロタウイルスワクチンを「すべての子どもに接種を勧める」としています。日本においては、ロタウイルス感染症にて毎年10人弱の死亡が報告され、2万～7万人強の乳幼児が入院していると推計されます。ワクチンは重症化を防ぐとされ、効果自体は約3年間続くと言われています。

ロタウイルスの感染症は「嘔吐下痢症」とも呼ばれ、嘔吐と下痢を繰り返し、便が白っぽくなるのが特徴です。ノロウイルス同様に感染力が非常に強く、10個以下のウイルスでも発症し、患者の便や吐しゃ物により保護者や保育園内に感染が広がることもしばしば見受けられます。

ワクチン「ロタリックス」は生後6週から接種が可能です。弱毒化した生ワクチンの液体 1.5ml を、中4週間以上空けて2回、口から接種します。国が行う定期接種ではないため、費用は原則、自己負担になります。

注意点は、遅くとも生後5カ月までに接種開始が必要ということです。過去に海外で使われた別のワクチンが腸重積（腸管の一部が腸管に入り込む病）を起こす可能性を指摘されたため、このワクチンの接種が国の承認を得られているのは、腸重積の自然発生が増える生後6カ月までです。それ以降は原則接種できず、接種を強行しても副作用が起きた場合に国の補償を受けられません。

また、生ワクチンの接種後4週間はほかのワクチンが接種できないため、重症化しやすい髄膜炎を防ぐためにも「日本小児科学会などが勧めるように、生後2カ月でヒブ、肺炎球菌ワクチンなどとの同時接種を行うのが標準的な方法」と推奨されています。

<臨床検査科の紹介シリーズ⑫ 最終回>

少し愛して永く愛して・・・臨床検査 臨床検査科技師長 ^{ごとう}後藤 ^{まりこ}眞理子

これまで11回の臨床検査についてのお話はいかがでしたか？臨床検査技師が直接患者さまに接して行う検査ではお話する機会がありますが、ほとんどの技師はお目にかかることはありませんでした。

臨床検査技師ってどんなイメージ？技師が地下にこもって試験管を振り振りあやしげな液体を加えつつ反応の様子をうかがっている。はたまた、顕微鏡を覗き込みこれまたあやしげな微生物やら、正体不明の細胞やらを一心不乱に観察している・・・おたくっばい！？

当たっていない事もないのですが、実際はほとんどが機械化されていて、検査内容によっていろんな装置があります。これらの装置には検査材料を前処理する機械や、測定したり判定したりする機械などがあって、所狭しと並んでいます。

技師が最終的に判定・判断した検査の結果はコンピュータシステムによって管理され、必要なときに必要な情報を提供しています。血液などの検体もバーコードで管理して、検査依頼から報告までシステム化されています。検査は、診断・治療における言わば病院のコンビニです。

体調がすぐれないと思ったら、是非医師に相談して検査されることをおすすめします。検査を身近なものと感じていただけたらと願っています。

